中外新聞

外篇

五

定價一冊

西垣文庫
文庫10
7328
5

特 文庫10
7328
5

西園寺文庫

西園寺文庫

中外新聞外篇巻之五　　慶應四年四月

○江戸表公議所取建之布告

皇国御制度の基本ハ全国の公議を以て定むべきハ至當の儀ゝ付政権を奉帰
朝廷諸藩公議を以為尽ハ様　奏聞致しハ儀ゝ有之然ろゝ是迄の家政向を熟考ゝれバ士民の心ゝ称てざる事少うらび実以て慙入ハ就てハ此度公議所を設け廣く衆人の公議を採り上下の情相通しハ様致し度ハ間銘〻見込ハ儀不憚忌諱申聞ハ様可致とゝの　上意ゝハ

別紙の通

上意有之いよ付ては　目見以上以下次男三男厄介且諸藩士并百姓町人より至る迄有志の輩い見込い次第書面を以て公議所へ可申立い尤も事柄より寄口上を以て申立いても不苦い事

右之趣向々へ不洩様可申相觸い

正月

○三月廿三日對州侯へ達相成い書付のよ一二通

今般

宗　對馬守

王政ハ一新総て外国ハ交際の儀於

朝廷ハ取扱ヲ為在いよ付ては朝鮮国の儀い古より来往の国柄益ハ威信を立為立い

ハ旨趣より付是迄の通両国交通を掌い拙家役より命い對

朝鮮国ハ用筋取扱い節い外国事務輔の心得を以て可相勤

い条ヲ仰付尤ハ国威相立い拙可致尽力

ハ沙汰い事

但王政ハ一新の折柄海外の儀別て厚く相心得旧弊等一洗致一此度ハ奉公可有之い事

今般公廃幕府
王政に一新万機
所宸断を以て公 仰出に付て ハ今後朝鮮に取扱の事件
等総て従
朝廷可公 仰出い条此旨朝鮮国へ可相達
に沙汰い事

宗 對馬守

三月

○題しらず

もゝ雲のかゝる紀世もいる志ぞ晴るんあまの神風

○なるゝ紀

世の中のなけ紀を志ぞ〻身よりおらて行るん君をあさむ

みさゝ紀

○尾州老侯正月廿日帰城後左の通仕置有之事

高二千五百石　元年寄　渡辺新左エ門
高千五百石　元用人　榊原勘解由
高千二百石　同　石川内蔵允
高八百石　に手付ル　塚田慈四郎
高千五百石　寄合　寺尾竹四郎
高七百石　元中奥小性　馬場七左エ門
高三百石　安井長十郎

右年来姦曲の處置により付　朝命より寄死罪賜りの也

高三百石　隠居　元側用人　武野新左エ門

高六百石　同　元番以　成瀬嘉兵エ

右年来志不正より付死罪賜りの也

高四千石　寄合　横井右近

高七百石　仝　沢井小左エ門

高二千廿石　元用人　横井孫右エ門

高三百石　仝　林　紋三郎

右志不正より付死罪賜りの也

元亀年寄隠居
従来不正より付蟄居ル

鈴木丹後守

即付ル

父の罪より付三千二百石内千六百石減島隠居　丹後守弟ル用人　鈴木嘉十郎

右同断三千五百石内千七百五十石減高隠居　豊前守弟寄合　成瀬比佐之丞

隠居孫右元門罪科より付持高内千十石減高隠居　寄合　横井孫四郎

同断七百石内三百五十石減高隠居　小左エ門弟　沢井鎌助

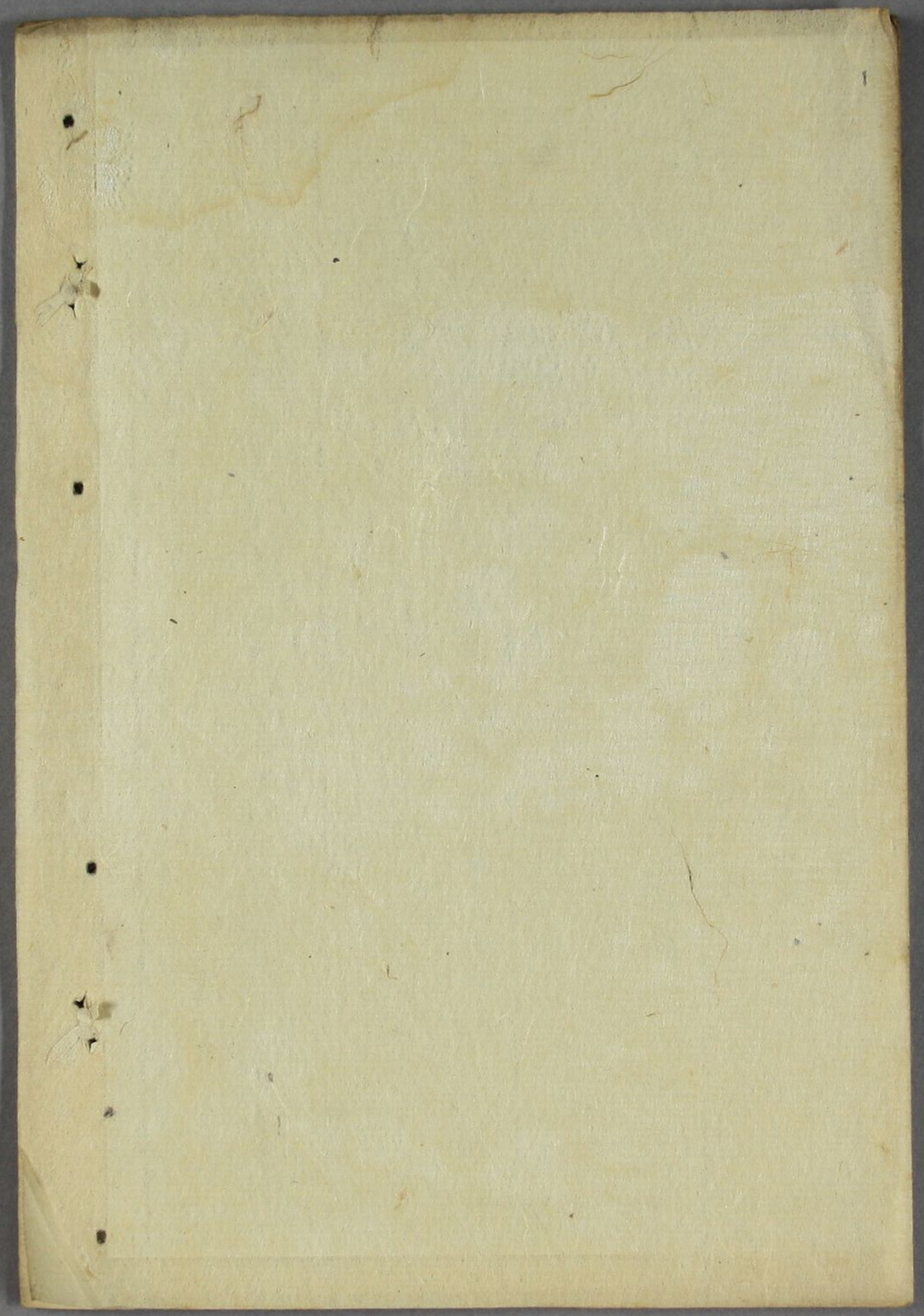
心得不宜ルに付蟄居持高三千五百石内千七百五十石減高　寄合　大造寺主水

心得不正に付蟄居　五千石　千村平右エ門

四千石元年寄　瀧川伊与守

同断　書院番以　加藤五郎右エ門

思召隠居　寿操院様用役　本間太左エ門

仝

元中奥　本杉録之丞
仝　松井市兵工
仝　若井鍬吉
仝　天野義兵衛
仝　進八郎
高百五十石　谷倉越之助
仝
仝
仝
仝
実父武野新右エ門
罪科ヨ付隠居
右正月廿日京都より尾ゟ へ帰着同日直ゟ夫〻ゟ
御付之